

# 行政視察報告書

令和2年3月9日

会派名 無所属クラブ  
会派代表者 堀 元  
(参加者：堀 元・大藪豊数)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和2年2月20日(木)
視察時間	13:15~14:45
視察先	国土交通省中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
視察項目	江南市防災拠点について

# 行政視察報告書

①

年月日	令和2年2月20日（木）
視察時間	13:15～14:45
視察先	国土交通省中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
視察項目	江南市防災拠点について
<b>■目的</b> 江南市で今後予定している防災拠点について、詳細情報の収集と先進事例の確認にうかがいました。	
<b>■内容</b> <b>【視察に至る経緯】</b> 我々議員が当局から情報提供されている防災拠点施設の各種情報について、これをさらに良い諸条件や情報がないかどうか、さらに注意すべき内容がないかどうかを国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所に直接うかがって調査、研究することとしました。	
	

### 【視察内容】

まずは手続きなど今後の流れとその周辺情報を指令室で先方のご担当者から聞き取りいたしました。その際、我々が江南市の担当からうかがっていた内容と見解の違いがあったことが分かりました。



こちらにうかがうまでは、防災拠点として予定されているエリアは、災害対策として必要な土砂やテトラポットなどの資材などを備蓄しておく施設であり、土砂は埋め立てておき、災害時にはそこから災害用に利用し、埋め立てた場所には管理棟が建ち、ヘリポートも作られるが、その管理棟や埋め立てた地面は市が独自に利用してもよいと理解していました。

ところが、現地でご担当者に直接おうかがいすると、国土交通省は防災拠点地域に災害時利用する土砂を備蓄のため埋め立てるのみで、管理棟やヘリポート、土砂の上を利用する駐車場や運動施設などはすべて当市側が設置しなければならないことが分かりました。



実際に岐阜市が長良川西側に国土交通省の災害拠点として埋め立てた土砂の利用実態を見学しました。

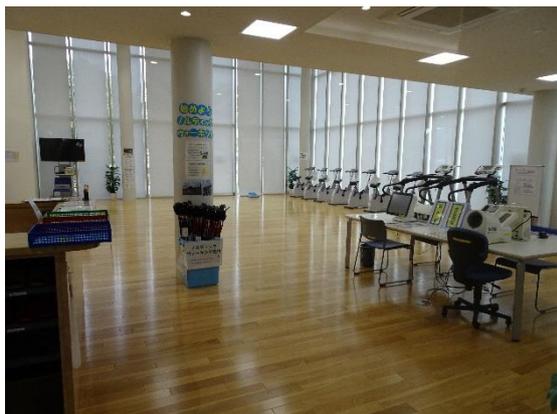
国土交通省の担当場所は、『長良川岐阜河川防災ステーション』として、昭和8年以前から流れている長良川本流から分かれた支流『古川』『古々川』の分岐点に築堤をした部分を重要水防箇所として万が一の堤防決壊などを考慮して土砂を埋め立てたものです。水防活動を行う上で必要な土砂等の緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、資材の搬出入に必要な作業ベースを確保するものです。万が一の洪水時には近隣市町村が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う基地となるものです。平常時には地域の皆様の防災学習の場として、また河川を中心とした文化活動の拠点としても大いに活用される施設です。



岐阜市が担当した建物などは、『岐阜市長良川防災・健康ステーション』として国土交通省が埋め立てた土砂の上を整備して建造した二階建て施設です。水防センターとして防災指令室・水防団待機場所としても利用されます。平常時は健康ステ

ーション・レンタルサイクル基地として利用されています。貸会議室や展望デッキやサロンなども併設しており、市民が気軽に利用できるような施設となっている。

ヘリポートはありませんでしたが、岐阜市のご担当にうかがうと、作業用エリアがあるので、そこに着陸用の目印を描くだけなので、いつでも対応は可能だということでした。



#### ■ 所感

情報として聞いている内容と、実際に現場に赴き調査、研究、学習してくるのとは大きな差があることが分かりました。

我々議員も市の企画する事業などに関してはしっかり協力していかなければいけないと改めて感じました。

※画像はすべて当該施設の管理者より掲載などの許可を受けております。